

〈資料1〉ホスピス緩和ケアの歴史を考える年表

世界	日本
	昭和 20 ●敗戦
	21 ●日本国憲法公布
	22
	23
●ニュールンベルグ綱領	
●世界保健機関（WHO）設立	
●第3回国連総会「世界人権宣言」	
●第2回世界医師会 総会「ジュネーブ宣言」	
●第3回世界医師会 総会「医の倫理に関する国際規定」	1949 24
	25
	26 ●日本が世界保健機関に加盟
	27
	28
	29
	30
	31
	32
	33
●国連総会「児童権利宣言」	1959 34
	35
	36
	37
●米国ミネソタ大学で社会学のR・フルトン教授が「死の講座」開設	1963 38
●第18回世界医師会 総会「ヘルシンキ宣言」	1964 39 ●岸本英夫『死をみつめる心』出版
	40
	41
●英国セント・クリストファー・ホスピス設立	1967 42
●第22回世界医師会 総会「シドニー宣言」（死に関する声明）	1968 43
●E・キューブラー・ロス『On Death and Dying』出版	1969 44
	45
●国連「知的障害者の権利宣言」	1971 46 ●E・キューブラー・ロス『死ぬ瞬間』翻訳出版
●米国ベス・イスラエル病院「患者の権利」を文書として公表	1972 47 ●『看護学雑誌』（6月号）に座談会「死と看護」掲載
●全米病院協会「患者の権利章典」	1973 48 ●河野博臣医師『看護学雑誌』に「死と看護」（1～12月）連載
	49 ●淀川キリスト教病院（大阪）で「末期患者のケア検討会」はじまる
●米国コネチカット・ホスピス開設	1974 49 ●河野博臣『死の臨床』出版
●第30回国連総会「障害者の権利宣言」	1975 50
●第29回世界医師会 総会「ヘルシンキ宣言・東京修正」	
●米国で「カレン・アン・クインラン裁判」判決	1976 51 ●日本安楽死協会設立
	1977 52 ●第1回「死の臨床研究会」
	●「実地医家のための会」の医師たちが英国のホスピス訪問
●WHO「アルマ・アタ宣言」	1978 53 ●柏木哲夫『死にゆく人々のケア』出版
	●桂病院の宮本茂充医師がブロンプトン・カクテルの臨床成績を報告

世界	
●米国で最初のエイズ患者発見	1979
	1980
●第34回世界医師会総会「患者の権利に関するリスボン宣言」	1981
	1982
●米国大統領委員会「生命倫理総括リポート」	1983
●第35回世界医師会総会「ヘルシンキ宣言・修正」(終末期疾患に関するベニス宣言)	
	1984
	1985
●世界保健機関『WHO方式がん疼痛治療法』を刊行	1986
●第39回世界医師会総会「マドリード宣言」(安楽死に関する宣言)	1987
	1988
●第41回世界医師会総会「高齢者の虐待に関する香港宣言」	1989
	1990
	1991
●第44回世界医師会総会「医師による自殺幇助に関する声明」	1992
	1993
●「ジュネーブ宣言」1994年修正	1994

日本	
	54
	55
●全国公私病院連盟「病院経営・管理の倫理、医の倫理」	56
●聖隷三方原病院(浜松)に日本初のホスピス開所	
●厚生省初めて「晩期がん患者の精神的、肉体的苦痛緩和(ターミナルケア)研究」に助成金	
●日本病院会「倫理綱領」	57
●日本病院会「勤務医師マニュアル」	58
●厚生大臣「生命と倫理に関する懇談会」(4月からスタート)	
●「日本安楽死協会」が「日本尊厳死協会」と改称	
●患者の権利宣言起草委員会「患者の権利宣言」(案)	59
●淀川キリスト教病院(大阪)に西日本初の病棟型ホスピス開設	
●厚生省「生命と倫理に関する懇談会」の報告書	60
●厚生省、日本エイズ患者第1号を確認	
●日医「生命倫理懇談会」発足(6月)	61
●日医「生命倫理懇談会」男女産み分けの報告書(9月)	
●第1回「サイコオンコロジー学会」開催	62
●国立療養所松戸病院に国立初の緩和ケア病棟開設	
●第1回「日本がん看護学会」開催	
●「ホスピスケア研究会」発足	
●厚生省「末期医療に関するケアの在り方の検討会」発足	
●日医・生命倫理懇談会が「脳死と臓器移植」について最終報告(1月)	63
●第1回「日本生命倫理学会」開催	
●「エイズ予防法」施行	平成1
●厚生省「末期医療に関するケアの在り方の検討会」が報告書発表	
●厚生省「ゴールドプラン」決定	
●日医「生命倫理懇談会」が説明と同意についての報告(1月)	2
●山崎章郎『病院で死ぬということ』出版	
●緩和ケア病棟入院料新設	
●「全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会」発足	3
●『ターミナルケア』誌(三輪書店)創刊	
●厚生省「脳死臨調」答申(1月)	4
●日弁連「患者の権利の確立に関する宣言」(12月)	
●訪問看護ステーション発足	
●ピースハウスホスピス(独立型)開設	5
	6

世界		日本	
	1995	7	●第2回「国際サイコオンコロジー学会」開催 ●「日本臨床死生学会」創設 ●東海大事件・横浜地裁判決
●「ヘルシンキ宣言 1996年南アフリカ修正」	1996	8	●第1回「日本緩和医療学会」開催
●米国オレゴン州尊厳死法施行	1997	9	●英国からシシリー・ソンドース来日
	1998	10	
	1999	11	
	2000	12	●介護保険制度始まる（4月） ●日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団設立
●オランダ，安楽死法を施行	2001	13	
●ベルギー，安楽死法を施行	2002	14	●緩和ケア診療加算の新設（4月）
●WHO「緩和ケアの定義」の改訂	2003	15	●第5回アジア・太平洋ホスピス大会開催
	2004	16	●「全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会」が「日本ホスピス緩和ケア協会」と改称
●米国「テリー・シャイボさんの尊厳死」州裁判決に米上下院が連邦地裁の再検討を決議。連邦地裁は州判決を支持	2005	17	●川崎協同病院事件・横浜地裁判決 ●『ターミナルケア』誌名変更，『緩和ケア』に ●「個人情報保護法」施行 ●シシリー・ソンドース死去 ●山崎章郎医師「ケアタウン小平」開設
	2006	18	●在宅療養支援診療所制度新設（4月） ●麻薬管理マニュアルの改訂（12月） ●「療養通所介護」制度新設 ●日本看護協会「訪問看護認定看護師」認定開始 ●「がん対策基本法」成立 ●「日本緩和医療薬学会」発足
	2007	19	●「がん対策基本法」施行 ●日本看護協会「ホスピスケア認定看護師」→「緩和ケア認定看護師」に名称変更 ●「緩和ケア医養成プログラム（PEACE）」開発 ●緩和ケア普及啓発活動「Orange Balloon Project」開始
	2008	20	●「緩和ケア普及のための地域プロジェクト（OPTIM）」発足 ●「緩和ケア診療加算」点数見直し（300点）
	2009	21	●「緩和ケア病棟入院料」届出受理施設が200施設を越える
	2010	22	●日本緩和医療学会「緩和医療専門医」認定開始 ●「緩和ケア診療加算」点数見直し（400点） ●PEACE研修修了者20,124人（2010.12）

（2006年4月作成：乾 成夫，2012年2月追加）